

## ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップへの参加報告

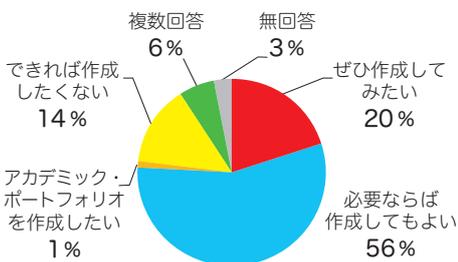
FD委員会委員長 井上 俊哉

### ティーチング・ポートフォリオ(TP)とは

昨年9月13日の教職員研究会の第2部として、東京大学・大学総合教育研究センターの栗田佳代子先生をお招きしてティーチング・ポートフォリオ講習会&ミニワークを開催し、99名(教員75、職員18、理事6)の参加をいただきました。ティーチング・ポートフォリオ(以下、TP)は「自分の教育活動について振り返り、その自らの記述をエビデンスによって裏付けた厳選された記録」のことで、①自身の教育を振り返り教育改善につなげる、②教育業績の(プラスの)評価資料とする、③教育スキルや内容を教職員間で共有する、④機関としての情報発信などが作成の目的となります。

教職員研究会・第2部終了時のアンケートの「ティーチング・ポートフォリオを作成してみたいですか」という問いへの71名の回答のうち、「ぜひ作成してみたい」14名、「必要ならば作成してもよい」40名、「アカデミック・ポートフォリオを作成したい」1名、「できれば作成したくない」10名、複数回答4名、無回答2名でした。「作成してみたい(してもよい)」という回答が比較的多かったので、栗田先生にご相談したところ、他大学教職員にも開かれたTP作成ワークショップを行っている機関として、大阪府立大学高専を紹介していただきました。

TPを作成してみたいですか？(N=71)



### 大阪府立大学高専TP作成ワークショップについて

大阪府立大学高専のTP作成ワークショップ責任者・北野健一先生にお願いして、TPおよびスタッフポートフォリオ(SP)作成ワークショップへ東京家政大学からの参加枠をいただきましたが、場所が大阪、期日も年末の3日間ということもあってか、応募者がありませんでした。そこで、FD委員を代表して井上が参加することにいたしました。私自身のワークショップへの参加目的は、「TP作成を通じた自分の教育活動の振り返り」「TPおよびFDに関する情報収集」の2つを考えました。

大阪府立大学工業高等専門学校は、「大学教育・学生支援推進事業」大学教育推進プログラムに採択された『ポートフォリオを活用した学生の学士力確保』の一環としてTP活用に取り組んでおられます。全国の高等教育機関で初の校内TP作成ワークショップを2009年1月に開催して以来、年2回のペースで重ね、第10回(2013年8月)までで全教員の63%にあたる46名がTPを作成済みとのことです。学外からの参加者にも積極的に門戸を開き、普及活動にも努めておられます。私が参加したのは、第11回ワークショップ(2013年12月26日～28日)です。大阪府立大学高専の方は多くがメンターなどスタッフの側に回り、TP作成者としての参加は大半が学外者でした。大阪大学、広島大学、県立広島大学、東京大学、福井工業大学、仁愛大学、熊本学園大学、京都造形芸術大学、和歌山高専、福井高専などから、幅広い年齢層の教職員総勢25名が参加していました(TP12名のほか、アカデミック・ポートフォリオ(AP)5名、大学院生AP(GSAP)7名、SP1名)。

## ワークショップ(WS)の実際

	1日目(12月26日)	2日目(12月27日)	3日目(12月28日)
午前		TP作成作業および個人メンタリング	TP作成作業および個人メンタリング
午後	オリエンテーション TP作成作業および個人メンタリング	TP作成作業および個人メンタリング	TP作成作業 / プレゼン準備 プレゼンテーション / 修了式
夜	夕食 兼 懇親会 第1稿をメンターにメールで送付	夕食会 兼 懇親会 第2稿をメンターにメールで送付	

ワークショップ(以下、WS)には、12月17日までに「スタートアップシート」を完成させて提出するという事前課題がありました。書籍(「実践ティーチング・ポートフォリオ スターターブック」)を参考にしながら、大学における教育活動や委員会活動、それらの活動に臨む自分の方針などを記入するのですが、私の場合、完成させるのに約6時間を要しました。スタートアップシートは、TP作成の出発点として使われます。

WSの初日、会場(大阪府立大学高専の図書館2階セミナー室)には、25名の作成者(メンティー)と18名のメンターが集合し、メンティーは3～4名がブロックになって席に着きます。大阪府立大学高専校長のお話、全員の簡単な自己紹介の後、簡単なレクチャです。レクチャ部分は教職員研究会の小講演&ミニワークと似ています。1日目は目次の作成と教育理念の執筆を中心とするようにアドバイスされると、早速TPの作成開始です。メンティーには一人ずつメンターが付きます。メンターとの個人メンタリング(各回10分から1時間程度)を参考にして(メンターは、自分とは違う視点からヒントを与えてくれました)、あとはそれぞれのペースで作業します。飲み物とお菓子の用意もあるので、疲れたら適当に息抜きをします。作成作業中はあまり会話がありませんが、懇親会を兼ねた夕食の席や昼食の時間に、近くに座った人とゆっくり話すことができました(懇親会への参加は任意)。夕食後はホテル(または自宅)に戻り、0:00までにその日の最終稿をメールでメンターに送ります。

WSに出かける前は、正直なところ「なぜ3日間も」と思いましたが、8～10頁を目標とするTP作成には意外に時間がかかりました。優に10時間は超えたと思います。ほかの用事から切り離されて、自分の教育(授業)を集中的に振り返るよい機会でした。なにがしかの新た

な気づきが得られたように思います。全員が一つの部屋で黙々と作業するというのもなかなか面白い体験でした。「作成物も大事だが、作成プロセスがより大事」と言われましたが、そうなのかもしれません。他大学の方と交流できるのもありがたく、FDに対する考え方や現状などについて情報交換することができました。最終日の修了式では修了証をいただきました。



ティーチング・ポートフォリオ作成ワークショップ  
修了証

部屋には、TPやAP、SPの多くの実例が置いてありました。作業中に、ときおりそれらをめくって参考にしましたが、章立てや強調点は作成者によってけっこう違っていました。私のTPは良い例とは言えませんが、実例の一つとして参考までに、「FDへの取り組み」のページで公開します。TPの公開・非公開あるいは公開の範囲についても、作成者によっていろいろなやり方があるようです。

TP作成に興味を持たれた方、ご質問のある方は、遠慮なく井上まで。ワークショップ開催情報などは、ティーチング・ポートフォリオ・ネット(<http://www.teaching-portfolio-net.jp/>)で確認できます。ワークショップ参加に必要な旅費・宿泊費等にFD予算をご利用いただけます。くわしくは、教学センター4番窓口の村上または仲谷までお問い合わせください。